

福井県立若狭高等学校の取組

福井県立若狭高等学校

校長 中森 一郎

1 3月、4月の学校の取り組み(概要)

1月～3月

(1)校務分掌体制の見直し

①指導から支援へ

- ・生徒を支援する体制作り ～部署の再編成と業務の見直し

②部署中心から学年会中心へ

- ・学年主任を中心に担任のクラス経営を支援
- ・副担任団(1,、2年4名 3年5名)を配置し、学年全体で生徒を支援
- ・働き方改革の推進

(2)3月2日以降

①ホームページにより課題を指示

- ・家庭のインターネット環境に配慮し、教科書中心の課題

②3月23日、24日 分散登校日

- ・面談、課題提出、課題提示

4月

(1)6日、7日 新担任が各家庭(保護者)に電話連絡(電話代を補助)

- ・自己紹介 ライングループ作成

(2)8日～ ①生徒の web 環境を調査(グーグルホーム) ※生徒の危機的状況を痛感

- ②2年学年会がラインとグーグルホームを活用した ST を試行

(3)13日～ ①校長より保護者、生徒に調査結果および今後の対応について報告(HP)

資料①

- ②全学年で毎朝の ST を開始(気になる生徒には電話で連絡)

健康チェック / 生活リズムの確立 / 学習支援 / 不安や悩みへの対応

- ③全家庭に課題や手帳、各種連絡等を郵送

(4)22日～ 教員間の情報共有とテレワークの効率化を図るためチャットワークを導入
(自由参加)

(5)26日～ PTA 会長による保護者対象アンケートを実施(グーグルホーム) 資料②

※各家庭の直面する課題の重さを痛感

(6)28日 福井県知事 学校の休業延長を発表(当面の間休業)

①校長より HP において今後の対応について発表 資料③

週1日の登校日 / 動画による授業 / 3者面談の実施(希望者)

②各家庭へ2回目の郵送

③web 環境の整っていない生徒については、県が DVD 再生機を貸与

(7)30日 PTA 会長が保護者対象アンケートの結果報告と5月7日以降の学校の対応等について、支援と協力を HP で保護者に呼びかけ 資料④

(8)4月末 県が各高校へグーグルクラスルームを導入

(9)5/1 入学式および登校日における感染予防対策を HP で公開

①分散登校(ゾーニング) 資料⑤

②手洗い / マスク / ソーシャルディスタンス等

※感染予防のためのオリジナル動画を作成し、入学式および登校日に見せる

2 校長として学校をどのように組織的にマネジメントしてきたか？

(1)HP の活用

・「校長室より」で行事や情報、校長としての考え等(R1 40回)を、教員、保護者、生徒に紹介

・PTA と連携し PTA 会長、副会長によるメッセージを掲載(不定期)

・臨時休業期間中の対応等を随時掲載

・生徒会のページ立ち上げ(R2,4 生徒会執行部が運営 「質問箱」等)

(2)生徒 web 環境調査・保護者アンケート等のデータに基づき、迅速に生徒の支援を実施

(3)支援方法等については、各部長、学年主任等の意見を尊重するとともに教員間の共通理解を徹底

3 子供たちとの繋がりや学習の推進をどのように図ってきた(いく)か？

- (1) 4月13日より、ラインとグーグルホームを組み合わせ毎朝 ST を実施し、生徒の健康チェックと生活リズムの確立、学習への取組状況の確認、悩みや不安への相談などを実施
- (2) 臨時休業に入った3月から毎週月曜日、10 時に各教科の課題を HP にアップ。英語科は ZOOM で英単語テスト等を実施。国語科は、課題を提出させ添削等を実施
- (3) また、並行して数名の教員が ZOOM や YouTube を活用したオンライン ST やオンライン授業に取り組み、実施方法や課題等について教員研修を行い共通理解を図ってきたことにより、5月11日から実施するオンライン授業に全校体制で取り組める体制を構築
- (4) チャットワークの導入により、テレワークにおける情報共有が容易になるとともに、全国の実践事例等も紹介しあうこと等により、教員の ICT 活用能力が向上
- (5) 今後はグーグルクラスルームを活用して、仲間作りやオンライン授業、課題の提出・チェック等を実施
- (6) 生徒会執行部が定期的に ZOOM 会議を開催、行事のプランや「今、自分たちにできること」等について協議。また、HP に生徒会のページを立ち上げ、生徒からの相談や制服の正しい着用等についての情報をアップ

4 コロナ禍以前の学校の取り組みとの関連はあるか？

- (1) 1月から3月にかけて検討・実施した校務分掌の見直しにより、学年会中心の生徒支援体制としたことが臨時休業時における生徒への迅速な支援に効果を発揮
 - ① 指導から支援へ
 - ・生徒を支援する体制作り ～ 部署の再編成と業務の見直し
 - ② 部署中心から学年会中心へ
 - ・学年主任を中心に担任のクラス経営を支援
 - ・副担任団(1、2年4名 3年5名)を配置し、学年全体で生徒を支援
 - ・働き方改革の推進
- (2) 学年会、SSH・研究部、教務部を中心に、全教員が共通理解のもと生徒の支援を迅速に実施できているのは、SSH・研究部が数年かけて教員の「コミュニティ」を形成してきた成果
※教員の「コミュニティ」は、本校が H26 年以来取り組んでいる「若手教員の授業力向上塾」や、全教職員による「互見授業」、「探究学習」への取組などにより、少しずつ形成
- (3) 図書情報センターを中心に、日頃から ICT 環境整備と教員の支援、HP の積極的な活用を図っていることが、教員の ICT 活用能力の向上や学校からの情報発信に寄与